



# COMO VAI? ロザーネです



(COMO VAI?=ポルトガル語で「ごきげんいかが?」)

## 第12回 ポルトガル語で話しましょう

### まずはあいさつから

この時期は、寒くて家の中で過ごす時間が増えますね。そんな時間を、楽しく過ごす方法はたくさんあるのに、子どもたちはテレビやゲームに熱中していませんか？

そこで今回は、頭の体操として、ゲーム感覚で外国語を楽しく覚えられるよう、皆さんにもなじみやすいポルトガル語をご紹介します。まずは、あいさつから始めてみましょう。

Olá = こんにちは (英語のHello)  
オブラ  
 Obrigado(a) = ありがとう オブリガード Boa tarde = こんにちは ボア タルデ  
 Bom dia = おはようございます ボン ディア  
 Boa noite = こんばんは ボア ノイチ Até logo = さようなら アテ ローゴ

### 日本語になったポルトガル語

実は、街のなかでもポルトガル語があふれています。レストランや、お店の名前としてよく見かけるのです。例えば家という意味の“CASA” (スペイン語では「カーサ」と発音します。ちなみにモロッコの首都カサブランカは“CASA BRANCA”(=白)で、「白い家」と言う意味です。)友達という意味の“AMIGO”、人の幸せを表す形容詞

“FERIZ”、懐かしいという気持ち(日本語にぴったりの言葉はないのですが)を表す“SAUDADE”などは、よく見かける言葉です。次にあげるのは、ポルトガル語から日本語になった言葉です。

Botão = ボタン ボタオン Pão = パン パオン Veludo = ビロード ヴェルード  
 Copo = コップ コッポ Capa = 合羽 カッパ Sabão = シャボン サバオン  
 Jibão = ズボン ジバオン Tabako = たばこ タバコ  
 Carta = かるた カルタ

### 発音がいっしょで意味が違う

このように、日本でも多くのポルトガル語が普通に使われています。私は幼いとき、両親がこれらの言葉を使っていると、ポルトガル語の会話の中に日本語を取り入れて話していると思っていました。

小学校に「NARA」という名前の先生がいたときには、偶然、私の父の先祖は奈良出身と聞いていたので、何か関係がないかと調べたときがありました(その先生は日系人でもなかったのですが)、日本語とポルトガル語は、意味が違って、発音が同じ言葉がいくつかあり、日本語を勉強し始めたときは戸惑いました。

「段差」..... Dança (踊り) ダンサ  
 「人間」..... Ninguém (だれも) ニンゲム  
 「会社」..... Caixa (箱) カイシャ  
 「千」..... Sem (無し) Cem (百) セン

いろいろな発見や、不思議に感じることと出会うのが、外国語を学ぶ楽しさの一つです。皆さんもポルトガル語を学んでみませんか？

今回は、実際にブラジルで使われている、日本語がもとになっているポルトガル語を紹介します。

(彦根市国際交流員 田尾ロザーネ)